



指定管理者制度導入から2年 生涯学習センターはどう変わったか

現在、府中市生涯学習センターは指定管理者「ふちゅう生涯学習センター共同事業体」によって運営されています。平成 25 年 4 月に市直営から指定管理者制度に移行してから 2 年、生涯学習センターはどう変わったか、講座運営や施設管理の面から振り返ります。（府中市文化スポーツ部生涯学習スポーツ課）

指定管理者制度とは、多様化する市民ニーズに効果的・効率的に対応するため、地方自治体が設置する「公の施設」の管理運営について、企業を含む幅広い民間の団体に委ねることを可能とする制度です。

●講座数・来館者数の大幅な増加

事務室の半分を改装し「フィットネ斯拉ボ」が新たに設置されました。平成 25 年度にスポーツの講座を 290 講座実施しましたが、うち 241 講座が「フィットネ斯拉ボ」で開催されました。幼児や小・中学生を対象とする講座が始まったことで、生涯学習センターを利用する子どもや親子連れが増えました。

また、ロビーコンサートや、お茶を飲みながら参加者が交流する「和みの部屋」など、指定管理者独自の催しが開催されるようになりました。

さらに、開館日も増えています。市直営時代には休館していた第 3 水・木曜日が、指定管理者制度導入以降は、原則として開館するようになりました（臨時休館日あり）。

年度	項目	教養・実技	スポーツ
平成 24 年度 市直営	講座開講数	66 講座	10 講座
	延受講者数	16,595 人	1,907 人
平成 25 年度 指定管理者	講座開講数	132 講座	290 講座
	延受講者数	21,060 人	38,191 人

●目に見える施設管理水準向上への取組み

施設管理も指定管理者の重要な業務です。裏方の仕事が大部分ですが、利用者の目に見える取組みもあります。

館内の照明を LED 電球に交換を進め、廊下や小ホール前のロビーが以前よりも明るくなりました。電気使用量については、4 月～12 月までの期間で過去 3 年間を比較すると、平成 26 年度は大幅に削減しています。これは、照明の LED 化を始めとする省電力の取組みが効果を上げたためです。

また、市直営時代には壁紙やイスの破れ等への対応が十

分できていませんでしたが、これらの補修も少しずつ進んでいます。

年度	電気使用量 (4～12 月)	対前年比率
平成 24 年度 市直営	1,715,640kWh	—
平成 25 年度 指定管理者	1,884,816 kWh	109.9%
平成 26 年度 指定管理者	1,538,794kWh	81.6%

●利用者のニーズに応じていくことが今後の課題

平成 26 年 3～5 月に指定管理者が実施した利用者アンケートでは、「施設について」の質問で、54%が「十分」、25%が「不十分」と回答しています（回収数 100 件）。

利用者アンケートの中で、備品の更新やレストランのサービス向上、講座運営の改善などを求める意見・要望を受けています。要望されていたベビーチェアを多機能トイレに設置するなど、対応を進めていますが、今後も利用者のニーズを捉え、応えていく必要があります。

また、子どもの利用が増えたことで、館内を走り回ったり、騒いだりする様子が目立つようになりました。誰もが気持ちよく使える施設にするため、利用者の様子にも気を配り、注意を促していく必要があります。

市では、指定管理者の業務を評価・監視する「モニタリング」を実施し、運営の適正化を図っています。（市 HP で公開）
<http://www.city.fuchu.tokyo.jp/jigyosha/keyaku/siteikanri/sitekanrisha.html>

生涯学習ボランティア入門講座を終えて

「悠学の会」企画担当 島村 芳夫

2月3日(火曜日)、4日(水曜日)に当該講座が府中市生涯学習センターにおいて、府中市・生涯学習センター・悠学の会の三者協働により開催された。今回の講座が当日参加された方々にとって今後のボランティア活動に活かされることを期待することとした。

第1日目には、次の講演と生涯学習センターの施設見学が行われた。

1 「定年後の地域デビュー」

川村 匡由氏 (武蔵野大学大学院教授)

★ 自営業には定年がないのに対し、サラリーマンは定年を迎える。仕事から離れて生きがいを求めるとなると、①現役時代のノウハウの活用、②地域での評価の取得、③地域活性化への貢献ということが考えられる。

★ 「会社人間」から「社会人間」への地域デビューということとなるが、「無理なく、元気で、地道に、明るく楽しく」ということがキーワードとなる。既存の事業に参加する、また新規の事業へ参加して、ボランティア、コミュニティビジネスなどにデビューすることとなる。その際の課題としては、ヒト、モノ、カネ、地域性という点に加え、継続性（毎月から毎週、毎日へ、3～10年計画など）ということがあげられると思う。



川村 匡由 教授

2 「府中市の生涯学習と市民協働」

目黒 昌大氏

(府中市生涯学習スポーツ課学習推進係長)

★ 府中市生涯学習推進計画では、生活の向上、職業上の能力向上や自己の充実を目指して、自発的に学習活動することが必要と位置づけている。

★ 府中市の学習推進の経緯としては、平成5年に生涯学習センターを開館、平成11年に第1次生涯学習推進計画（主に行政の役割）を策定した。また、平成16年に生涯学習ボランティア「悠学の会」という任意団体がスタートした。平成21年には、第2次の生涯学習推進計画の策定（市民の役割：学び返しを通じた地域教育の向上）が行われた。

★ 平成25年には市民協働推進本部を設置し、平成26年10月に、「市民協働都市宣言」を行い、市民協働を進める体制が整った。

★ 生涯学習センターは、平成25年4月に指定管理者制度へ移行し、市直営から、民間事業者による運営となった。指定管理者は、民間のもつノウハウを活かして、講座の充実、施設管理の効率化、新サービスの提供などを図っている。

3 「生涯学習への取組と現状について」

森田 宏氏 (府中市生涯学習センター副館長)

★ 今年度の生涯学習センターの目標は、①利用者に親しまれる空間の創造（ロビーコンサート、和みの部屋など）、②学習意欲の高まる講座の提供、③生涯学習センター独自の市民参加型企画の推進の三つである。

★ また展開する学習事業は、教養講座、趣味、文化、語学、絵画、体験、資格取得などがテーマである。

★ なお、市民参加型の企画としては、公民館での活動の経験から、「趣味から入るボランティア活動（生き甲斐の創造）」、「楽しさの実感」、「仲間意識と達成感」などがキーワードであったと思う。こうしたことを今後も活かしていきたい。

第2日目

には、生涯学習ボランティア「悠学の会」の活動内容が、奥野英城事務局長から紹介された。また、「映像とナレーション」によって、各グループの活動が紹介された。さらに「ボランティア活動の体験談」が、3名の会員（宍戸茂氏、設楽厚子氏、渡邊繁雄氏）から披露され、出席者の参考にして頂いた。

こうしたことをもとに、今回の参加者と府中市の担当者および悠学の会メンバーによるグループディスカッション（2グループ）を行い交流を深めて、二日間の講座を終了した。



グループディスカッション

「生涯学習」この人に聞く その③

～ まちねっと府中 齊藤実さん ～

今回は市内のまちの身近な情報をホームページ (<http://machinetfuchu.com/>) で発信する活動をしている「まちねっと府中」の齊藤実さんに伺いました。

Q この活動のきっかけは

退職後、しばらく親の介護などで家にいたのですが、在職中の経験からパソコンの知識を活かせる活動が出来ないかと考えていました。あるNPO団体のホームページ作成講座の講師をしたことがきっかけで、2012年7月に目的に同調した受講生10人ほどでボランティア団体「まちねっと府中」を立ち上げました。

Q 設立の目的は

パソコンを学習したい人は大勢いて、市内の施設を借りてパソコン教室を開催するといつも満席でした。折角習得したパソコンの知識を活かすため、仲間を募ってボランティアとして、まちのさまざまな情報の発信に役立てたい、みなさんのパソコン学習のお手伝いもしたいという思いでした。

会としては無理のない活動が継続できるよう、会員の出来ることを出来る範囲でとし、月2回の例会を行ってきました。パソコンの苦手な人は情報提供だけでも良いので参加するという緩いスタートでした。

Q どのようなホームページ (HP) を

HP作成勉強会の講師や受講者がメンバーにいますので、高価なHP専用ソフトを使うのではなく、フリーソフトを活用し、工夫をしながらシンプルな手づくりのページを作成しています。ぜひ当会のHPをご覧ください。

HP専用ソフトでどのようなページでも容易に作成できますが、それでは完成しても達成感が得られません。自分達でいろいろ工夫し苦労して制作することで完成時の充実感が得られます。

Q まちねっと府中として目指していることは

とにかく市内全38町の情報を詳細に整理して、市内の交通・名所・名物・四季の風物・気になる店・府中の今昔・その他あらゆる有効な情報、イベント・伝承すべき文化など多くのことを後世に残したいと思っています。また、パソコンを学びたい人、パソコンが苦手な人は、情報提供だけでも参加してもらって、38町に会員を増やして交流の場を広げたいと思っています。同時に活動的な市民の方を発掘し、市が活性化するよう取り組んでいます。



Q もう一つの活動「ピークル計測」とは

私の趣味はパソコンと自転車です。そこでPC(パソコン)とcycle(サイクル)を合わせて「p-cle」とした造語です。自転車で日本一周中、これまでに8000km走破しました。いつかは10000kmを達成したいと思っています。自転車のことなら自信があるので、近隣のみなさんの修理依頼に応じています。それも口コミだけで広がって来ています。また、「計測」とは、競技大会においてタイムを計測する仕事です。最近ではマラソンなどの着順やタイムはPCで精密に計測する時代になっています。各ランナーにICチップを着用してもらい、発着タイムを記録するのです。趣味を生かして、定年後に一人で起業しました。500人までの小規模の大会に応じられます。これもHPで評判が広がり、全国各地から計測依頼が来ています。ボランティア的に始めたことですが、かなりの仕事になってきています。将来は市内でのマラソン大会を企画することが出来ないかなどと思案中です。

Q 齊藤さんにとって生涯学習とは

生まれ育った町の有形無形の財産を大事に引き継いで行くことは我々の責任、地域への恩返しだと思います。そのために地域の身近な情報をまとめて継承し、それに役立つことを学び、市民に提供するために楽しく勉強したい。教えられることは教えたい。特に活動拠点を発掘したいと思っています。集いカフェ、学習交流の場、スタイルはどうでも気軽に出入り出来る場があれば、可能性は広がります。そういう活動を息長く続けることが自分自身の課題と考えています。

インタビューを終えて

長時間にわたりお話を伺いましたが、齊藤さんの活動はエネルギーに溢れていました。好奇心旺盛で、何事にも関心を持ち、それをすぐに実行に移すと言う行動力に敬服。身体が一つでは足りない日常のようですが、ますますの発展を期待したいと思いました。(記・小林)

※まちねっと府中 齊藤さんへの問い合わせは下記宛
info@machinetfuchu.com

浅間町は、昭和34年(1959年)の町名地番変更によって誕生した、浅間山の西麓に広がる町である。浅間山はなぜか浅間町ではなく、若松町に組み込まれた。

町の半分以上を占める1丁目全域は、在日米軍府中基地跡である。昭和48年(1973年)に、通信施設を除く大部分の敷地が日本に返還された。そして跡地は3分割され、北部は大蔵省、南西部は地方自治体(東京都、府中市)、南東部は防衛庁が使用することとされた。今、南西部には府中の森公園や芸術劇場・美術館・市民聖苑・浅間中学校がつくられ、南東部は航空自衛隊府中基地となっている。

では、北部はどうなっているのだろうか、私たちは周辺を歩いてみた。その南側には生涯学習センター、平和の森公園やテニスコート、臨時駐車場があるが、大部分は鉄条網と高いコンクリート壁に囲まれた廃墟となっている。藪におおわれ崩れかけた建物、鬱蒼とした森、その中にひととき目立つ2基のパラボラアンテナ、そして通信用鉄塔。もちろん立入禁止だが、ネットで調べると、ここは廃墟マニアにとっては絶好の探検スポットになっているようだ。敷地内の画像や建物内部の様子までアップされている。



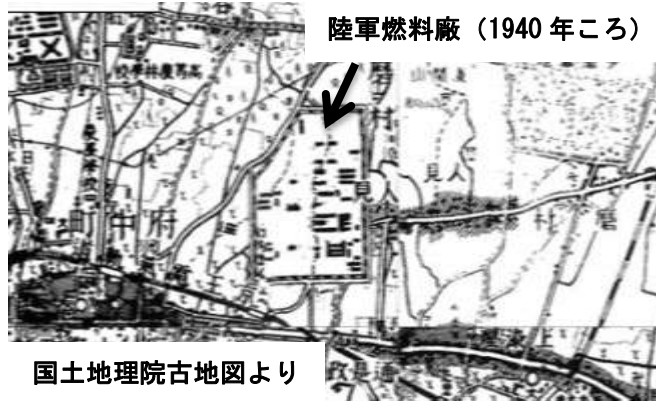
米軍府中基地跡 パラボラアンテナと鉄塔

北部跡地の利用については、一時、国立医薬品食品衛生研究所や国家公務員宿舎の建設案が持ち上がるも、衛生研の移転先が川崎市に決まり、平成24年(2012年)に中止となった。その後どうなったか、最近の「市議会だより」273号(2015.2.5)によると、「国からは26年度中に利用計画の策定スケジュールを示してほしいとのことで、市は、庁内で調整し、検討したいと考えている」という。廃墟が早く市民のために有効活用されることを望みたい。

生涯学習センターの東隣には、鉄条網に囲まれた跡地への通路がある。その入り口には、赤さびの目立つ在日米軍府中通信施設の看板がかけられている。パラボラアンテナは廃棄になっているが、通信用鉄塔はまだ使用され、その敷地が残された米軍通信施設なのだ。

米軍府中基地跡は、旧陸軍燃料廠であった。太平洋戦争への足音が高くなると、陸軍は、石油燃料の研究と燃料備蓄を目指して、昭和15年(1940年)に、燃料廠本部と研究部を府中に開設した。技術将校が移駐

し、航空燃料や潤滑油の研究を必死に行った。その中に、後にノーベル化学賞を受賞する故福井謙一博士が、京大大学院生で陸軍将校として「航空添加燃料の合成」の研究をしていた。博士が驚くほど酒に強くなったのは、ここでの研究で、毎日アルコール蒸気を吸っていたせいだと話されたエピソードが残っている。



陸軍燃料廠(1940年ころ)

国土地理院古地図より

この頃の地図をみると、浅間山の西麓は、人家のない、桑畑や雑木林の広がる平坦地であった。人見街道と小金井街道の間に、東西650m、南北850mの長方形の広大な敷地が準備された。調布や立川の飛行場に近く、燃料本部・研究拠点に最適であったと思われる。輸送のために、現JR北府中駅からの引込線(現在の富士見通り)もつくられた。わずか5年で消滅した燃料廠は、時すでに遅く、太平洋戦争の遂行には殆ど役に立たなかった。しかし、ここで育った研究者・技術者が、戦後日本の石油化学の発展に大きな役割を果たし、日本の復興を支えた。また、米軍の爆撃を受けなかったのは、当初、占領軍司令部をこの施設に置くことを想定していたからだとも言われている。

戦後70年、浅間町界限にはまだ戦争遺物が残っているが、平和通り、平和の森公園、そして学習センター入り口には、府中市平和都市宣言の碑など、平和を願う戦後の市民の気持ちもまた溢れている。浅間町周辺を巡りながら、この平和が長く続いて欲しいとつくづく思った。

(記・奥野)

☆参考資料:

「陸軍燃料廠」石井正紀著 光人社NF文庫(2003)

編集後記:生涯学習だより51号をお届けします。今回は2年間を経た指定管理者制度の状況を報告します。また、ボランティア入門講座、この人に聞くシリーズ「まちねっと府中」の活動紹介、ふちゅう東西南北は、都立浅間山公園の麓の浅間町を取り上げました。これらの記事から府中市のボランティア活動をより身近に感じて頂けたら幸いです。(近賀)

企画・編集:府中市生涯学習ボランティア「悠学の会」
共同発行:府中市文化スポーツ部生涯学習スポーツ課
ふちゅう生涯学習センター共同事業体
〒183-0001 府中市浅間町 1-7
府中市生涯学習センター TEL:042-336-5700